

平成 20、21 年度  
中期目標の達成状況報告書  
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月  
奈良女子大学

## 目 次

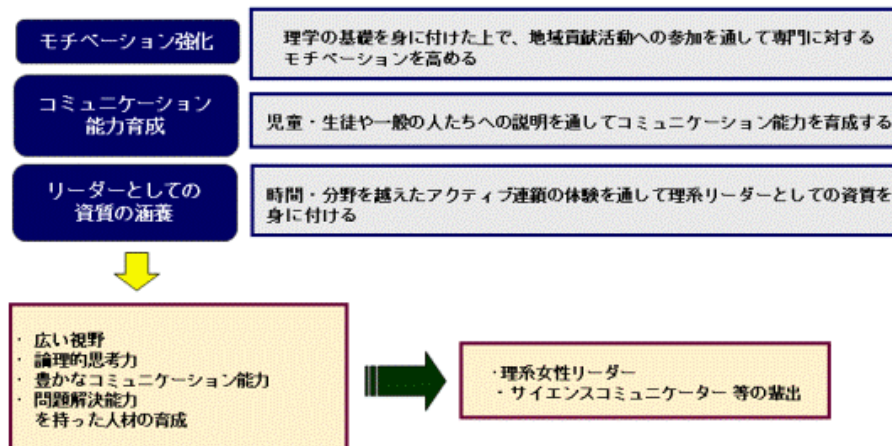
|           |                                         |    |
|-----------|-----------------------------------------|----|
| 資料 1 - 1  | 質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）概要 . . . . .      | 1  |
| 資料 1 - 2  | 「健康運動指導士」資格取得のための必要科目 . . . . .         | 2  |
| 資料 1 - 3  | 大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）概要 . . . . .      | 3  |
| 資料 1 - 4  | 高大連携特別教育プログラム概要 . . . . .               | 5  |
| 資料 1 - 5  | 女子中高生のための関西科学塾 2009 . . . . .           | 6  |
| 資料 1 - 6  | 文学部コース制の概要 . . . . .                    | 7  |
| 資料 1 - 7  | シラバスの WEB 入力システム . . . . .              | 8  |
| 資料 1 - 8  | 教員免許状更新講習 . . . . .                     | 9  |
| 資料 1 - 9  | 女性教員の採用促進に関するアクションプラン . . . . .         | 11 |
| 資料 1 - 10 | 附属図書館「ラーニング・コモンズ」、「グループ学習室」 . . . . .   | 11 |
| 資料 1 - 11 | 女性のライフサイクルに配慮した教育研究環境整備 . . . . .       | 12 |
| 資料 1 - 12 | 授業料免除対象者数の推移 . . . . .                  | 12 |
| 資料 1 - 13 | 経済情勢の変動に伴う緊急経済支援のための特例授業料免除規程 . . . . . | 13 |
| 資料 2 - 1  | アジア・ジェンダー文化学研究センターを中心とした研究推進 . . . . .  | 14 |
| 資料 2 - 2  | 奈良盆地歴史地理データベース（GIS データベース） . . . . .    | 16 |
| 資料 2 - 3  | 奈良女子大学メールマガジンの年度別発信数と登録者数推移 . . . . .   | 17 |
| 資料 2 - 4  | 適切な研究者配置によるプロジェクト推進 . . . . .           | 17 |
| 資料 2 - 5  | 学内施設の有効活用による研究環境整備 . . . . .            | 19 |
| 資料 2 - 6  | 大学と附属学校園との連携による共同研究の推進 . . . . .        | 20 |
| 資料 3 - 1  | 国際学術交流協定締結校一覧 . . . . .                 | 21 |
| 資料 3 - 2  | 奈良地域留学生交流推進会議 . . . . .                 | 22 |
| 資料 3 - 3  | アフガニスタン女子教育支援のための女性教員研修 . . . . .       | 23 |

## 〔別添資料 1－1〕 質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP） 概要

## 質の高い大学教育推進プログラム「地域貢献活動を活用した理系女性人材育成」

## ○活動の目的

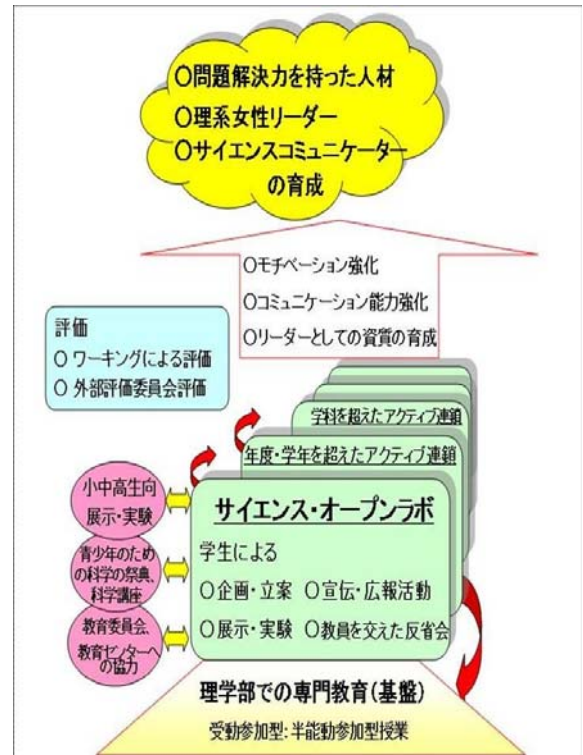
この取組では、理学部の基礎的知識を身につけた本学の学生を、理学部で実施する地域貢献活動に能動的に参加させることで、学生の専門の勉学へのモチベーションを高め、広い視野、論理的思考、豊かなコミュニケーション能力、問題解決能力をもった理系女性人材育成を図り、その結果として理学部に対する社会の期待に応えることを目標としています。



## ○具体的な取組

この取り組みでは、学生能動参加型授業（サイエンス・オープンラボ）を開講します。主として3回生が受講するサイエンス・オープンラボⅠでは、学生は自身の持つ専門科目の知識を基盤として、自ら立案・企画し、小中高生や一般市民に対して最近の専門分野の内容を教え、実験提示します。前年度の単位取得者が受講するサイエンス・オープンラボⅡでは、学生は理学部5学科の共催体制による専門分野を越えたアクティブ連鎖に加え、学年や年度を越えたアクティブ連鎖を体験し、理系のリーダーとしての資質を身に付けます。

さらに、授業での学習・経験・反省を生かして、毎年奈良県で開催されている「青少年のための科学の祭典・奈良大会」などの地域連携活動に積極的に参加させます。教員は理学部の地域貢献活動としてのレベルを保ち、また学生リーダーとしての資質の育成を目指しながらも、学生の主体性に配慮した指導を行います。授業の最後に学生と教員がアンケート結果等を元に討論会を開催し、本授業を総括します。



[別添資料 1 - 2] 「健康運動指導士」資格取得のための必要科目（1・2年次生用）  
（「平成 21 年度専門教育ガイド」から抜粋）

## (2) 「健康運動指導士」資格

「健康運動指導士」は、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与するための運動を指導する専門家の育成を目的として、財団法人健康・体力づくり事業財団が実施している資格制度です。

この資格の取得者は、アスレチッククラブや健康増進センター、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業等で活躍することが期待されます。

### \* 「健康運動指導士」の資格を取得するための必要科目

以下の科目の単位を取得すると、受験資格を得ることができます。

| 科目番号    | 科 目 名             | 科 目                 | 開講学科・専攻   |
|---------|-------------------|---------------------|-----------|
| 0132600 | ス ポ ー ツ 実 習 C 2   | 全 学 共 通             | 人 間 科 学 科 |
| 2012210 | 人 体 生 理 学 概 論     | 文 学 部 共 通           | 人 間 科 学 科 |
| *       | ス ポ ー ツ 生 理 学 概 論 | 文 学 部 共 通           | 人 間 科 学 科 |
| 2012150 | スポーツバイオメカニクス概論    | 文 学 部 共 通           | 人 間 科 学 科 |
| 2012120 | ス ポ ー ツ 心 理 学 概 論 | 文 学 部 共 通           | 人 間 科 学 科 |
| 2074670 | スポーツ科学入門実習        | 文 学 部 人 間 科 学 科 共 通 | 人 間 科 学 科 |
| 2073550 | スポーツ科学入門演習        | 文 学 部 人 間 科 学 科 共 通 | 人 間 科 学 科 |
| 2074850 | 野外スポーツ実習・夏        | 文 学 部 人 間 科 学 科 共 通 | 人 間 科 学 科 |
| 2074740 | 身 体 表 現 実 習       | 文 学 部 人 間 科 学 科 共 通 | 人 間 科 学 科 |
| 2073750 | ス ポ ー ツ 心 理 学 演 習 | 文 学 部 人 間 科 学 科 共 通 | 人 間 科 学 科 |
| 5206000 | 生 活 健 康 学 概 論     | 生 活 環 境 学 部 共 通     | 生活健康学専攻   |
| 5424000 | 生 活 保 健 学         | 生活環境学部生活健康・衣環境学科    | 生活健康学専攻   |
| 5431000 | 健 康 ト レ ー ニ ン グ 論 | 生活環境学部生活健康・衣環境学科    | 生活健康学専攻   |
| 5431500 | 運 動 医 学 論         | 生活環境学部生活健康・衣環境学科    | 生活健康学専攻   |
| 5426000 | 栄 養 生 理 学         | 生活環境学部生活健康・衣環境学科    | 生活健康学専攻   |
| 5441000 | 健 康 づ くり 運 動 実 習  | 生活環境学部生活健康・衣環境学科    | 生活健康学専攻   |
| 5441500 | 有 酸 素 運 動 実 習     | 生活環境学部生活健康・衣環境学科    | 生活健康学専攻   |

※ 上記の科目すべて必修です。

## 〔別添資料 1－3〕 大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP） 概要

## 大学院教育改革支援プログラム「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」

本プログラムの基本的な特徴は、歴史的に培われた本学の総合力を生かし、社会・文化・人間・環境・生活に関する専門的教育研究に加え、実習・実践的な側面を強化したカリキュラムを編成している。各専門領域で「実践基礎群」・「実践応用群」科目を展開し、従来の演習科目に加え調査やフィールドワークを基礎に、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成する。

## ○ 具体的に関心に密着した実践基礎群科目

限定された課題や能力に関わる、比較的短期で展開する実践基礎群科目を強化・新設し、技術・技能の開発・伝達をめざし、学生の実践的な関心に応える。これらの授業は、専任教員のみでなく、専門的な職域で深い知識や豊かな経験と能力を発揮している社会人や本研究科修了者をゲストスピーカーとして招くなど、多彩に展開される。

## ○ 専門的能力を磨き上げる実践応用群科目

従来の演習科目の内容を充実させたり、あるいは新設したりして実践応用群科目を作り、1年次の後半から2年次にかけての時期を中心に密度の濃い実践的学習を行う。この科目群では、現地調査やフィールドワーク、制作実習など、座学では得られない実践的かつ専門的能力の向上をめざす。

## ○ イニシアティブ授業を継承し、研究者養成も

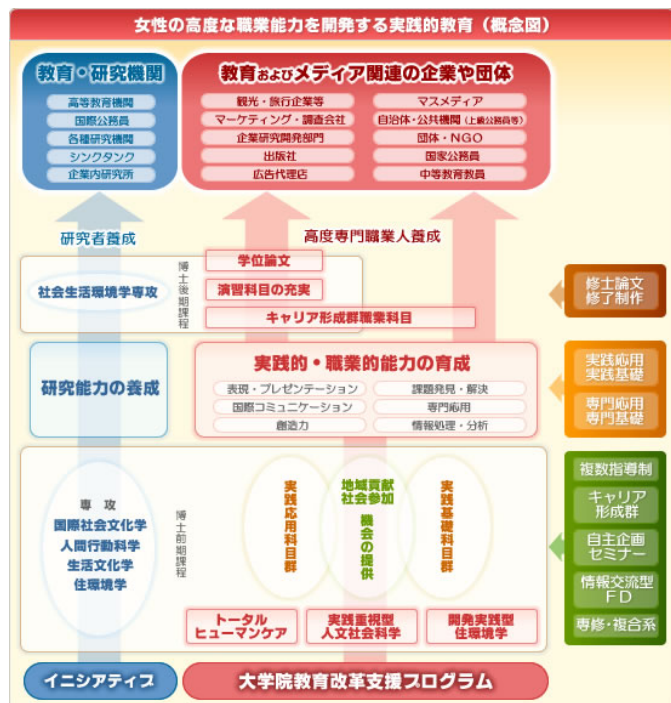
高度な専門的知識を提供する現在の専門基礎、専門応用の2つの科目群について各々の授業の改善を図る。また、主として研究者養成を念頭に置いた「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」事業を、高度な専門的能力の育成を図る方向で継承し、マネジメント能力を養成する研究マネジメント群科目や自覚的にキャリア形成を図るためのキャリア形成群科目を・充実させる。

## ○ 学生の意欲を高め、自主的な活動をバックアップ

自主的な研究会・セミナーや本学の地域貢献事業の企画と運営に参加する機会を設けることによって、生きた能力を身に着けることをめざす。各種の授業や機会を系統的に活用することで、着想と提案の意欲と能力を備え、実践型の企画・マネジメント能力等に秀でる女性を社会に送り出す。学生による自主的なセミナー開催を人的・経済的にバックアップし、学生個人の口頭発表や作品の発表を経済的に支援する。

## ○ 博士後期課程

社会生活環境学専攻は、研究者及び高度専門職業人の養成を目的としており、上記プログラムを経て進学した学生について、より高度な実践的能力を開発する。社会のニーズに直結する実践的研究課題を追求する研究者や、専門知識を背景に組織を指揮・運営する女性リーダーをめざすよう促す。

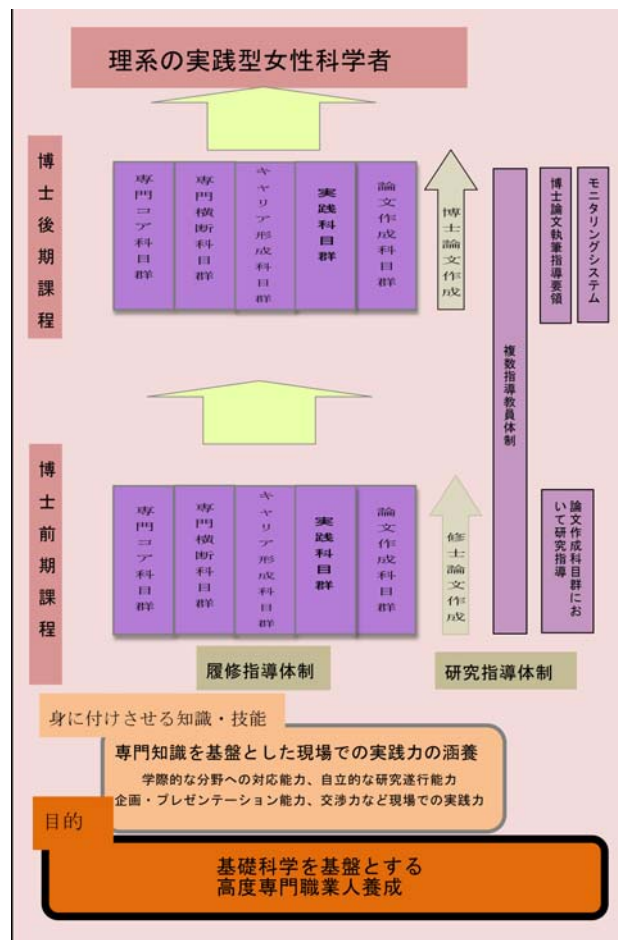


大学院教育改革支援プログラム「理系の実践型女性科学者育成」

本教育プログラムは、本学大学院におけるこれまでの実績や経験をさらに発展させ、専門知識や能力を実践の場で活用し、幅広く社会で活躍できる理系の実践型女性科学者の育成を図るものである。この目的を達成するため、本教育プログラムでは、本学大学院の教育課程を基盤とし、以下に掲げる取組みを教育プログラムの柱とする。各専門分野の基礎能力の育成のための「専門コア科目群」、学際的な分野への対応能力の涵養のための「専門横断科目群」、学生の自立的な研究遂行能力や企画・プレゼンテーション能力の育成のための「論文作成科目群」と「キャリア形成科目群」などの科目群をおき、さらに社会から求められる実践力をもつ高度な専門職業人の育成のために「実践科目群」を新設する。このような科目群による教育課程に基づく指導を適切なプロセス管理の下で進め、理系の実践型女性科学者育成という教育目標の実現を図る。

本教育プログラムの柱

1. **専門知識の修得[専門コア科目群]**：各専門分野での専門知識を授ける。
2. **分野横断的知識修得[専門横断科目群]**：多様な分野の教員がオムニバス形式で講義を行い、動きの速い知識基盤社会で必要とされる新分野、異分野に対応できる知識・能力を培う。
3. **論文作成[論文作成科目群]**：セメスター毎にセミナー形式論文作成指導を行う。
4. **キャリア形成[キャリア形成科目群]**：
  - 4-1. 英語能力・プレゼンテーション能力向上：科学英語能力・プレゼンテーション能力の向上を目指した科目科学英語プレゼンテーション、海外科学英語実習を開講し、国際社会で活躍できる能力を培う。
  - 4-2. 学生の自立的企画力向上：学生が自ら企画しテーマを決める科目院生企画セミナー、科学情報発信セミナーを開講する。学生自らが、招聘する外国人を含めた優れた研究者を決定するなどして高度な学術研究に接する機会を作る。
  - 4-3. 女性科学者としての目標設定：国内外の女性科学者のインタビューなどの交流を行う科目女性先端科学者セミナー、女性先端科学者キャリア実習を開講し、女性科学者としての目標設定の一助とする。
5. **実務的能力の育成[実践科目群]**：
  - 5-1. 双方向型インターンによる知識を実践に応用する能力向上：本学社会連携センターと連携し、大学でも派遣先での実務に関する研究ができる環境を設定し、教員がインターンの研究内容に関わる形のインターン実習科目 双方向型インターン実習、企画インターン実習を開講する。これにより専門知識を実務に応用する能力を身につける。
  - 5-2. グループワークによる表現力、交渉力の向上：従来の理論や実験結果から研究課題を発見することや未解決問題の新しいアプローチを探ることなどを課題とする グループワーク演習を開講し、表現力や交渉能力を磨く。



〔別添資料 1－4〕 高大連携特別教育プログラム概要

男女共同参画社会をリードする女性人材の育成を目指す高大連携特別教育プログラム

1. 目的

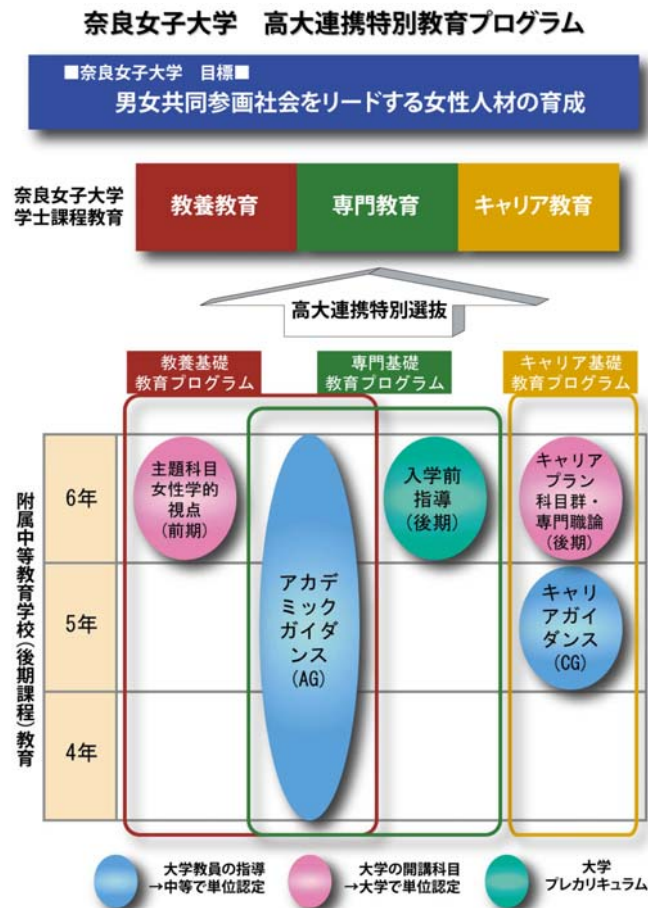
奈良女子大学は、基本理念に「男女共同参画社会をリードする女性人材の育成」を掲げ、平成16年度の国立大学法人化に際しても、この理念の実現は国立女子大学として目指すべき最も重要な中期目標とされ、教育・学生支援はもちろんのこと、研究、対外連携、管理運営を含む、あらゆる業務運営を女性人材の育成という目標に向けて収斂させてきた。

一方、大学を取り巻く新しい環境に対応した大学のあり方をめぐって、『学士課程教育の構築に向けて』（中央教育審議会大学分科会制度・教育部会、平成20年3月25日）にあるように、「受験生、大学の双方が多様化する中で、学士課程教育の質の維持・向上の前提として、高等学校と大学間の円滑な接続を実現し、両者の希望のマッチングを図るため、高等学校の出口管理や大学入試のシステムを改善することが求められている」ところである。

以上のような状況のもと、附属学校園を有し、様々な取組を実施してきた本学は、高等学校教育との接続を視野に入れて、その目標である「男女共同参画社会をリードする女性人材の育成」の強化を図るとともに、高大連携・接続の観点から踏まえた入学者選抜方法を検証するために、附属中等教育学校と連携して「男女共同参画社会をリードする女性人材の育成を目指す高大連携特別教育プログラム」を実施することとした。

2. 奈良女子大学と附属中等教育学校との連携教育の実績

- (1) アカデミックガイダンス(AG)：4・5年生全員が必修（平成20年度までは3・4年生全員必修）
- (2) キャリアガイダンス(CG)：5年生全員必修
- (3) スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における連携



## 〔別添資料1-5〕女子中高生のための関西科学塾 2009

国立大学法人奈良女子大学創立百周年記念事業

100th Anniversary

参加者募集

## 女子中高生のための関西科学塾 2009

とき：2009年3月14日(土)～15日(日) 一泊二日  
ところ：国立大学法人 奈良女子大学 / 奈良ユースホステル

**Contents**

実験：大学で実験する。  
(物理学・化学・医学・生物学・工学・電子情報・  
生体高分子学など 10講座から選択)  
発表：ジュニア・オープン・ラボで自分達の実験結果を発表する  
● 野口哲子さん(奈良女子大学 理学部長)の講演を聴く  
● 理系の女性研究者の話聞く  
● 理系分野の大学生や研究者と交流する

**Application:**

募集：女子中学3年生・女子高校生 合計 80名  
同伴者(保護者・教員) 20名  
宿泊：奈良ユースホステル(奈良市法蓮佐保山 4-3-2)  
参加費：中・高校生 6000円、同伴者 6700円(宿泊費、食事を含まず)  
申込み：2009年1月10日(土)～2月10日(火)  
託児室を設置します(14日、15日 9:00～17:00)。御利用希望の方は、お申し込み時にご連絡ください。

**Host:**

主催：国立大学法人 奈良女子大学  
後援：文部科学省、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、大阪府教育委員会、京都府教育委員会、  
兵庫県教育委員会、(以下、50音順)電子情報通信学会、日本育種学会、日本遺伝学会、  
日本化学会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、日本物理学会、日本分子生物学会  
協力：男女共同参画学会連絡会  
協賛：応用物理学会関西支部、奈良女子大学女性研究者共助支援事業本部

**Contact:**

女子中高生のための関西科学塾 2009 事務局 〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学内  
Eメール: kagakuju\_office@cc.nara-wu.ac.jp FAX: 0742-20-3958

国立大学法人奈良女子大学百周年記念事業

100th Anniversary

## 女子中高生のための関西科学塾 2009

とき：2009年3月14日(土)～15日(日) 一泊二日  
ところ：国立大学法人 奈良女子大学 (奈良市北魚屋東町)、奈良ユースホステル (奈良市法蓮佐保山4-3-2)

● 大学で実験する(10講座から選択)  
● 野口哲子さん(奈良女子大学理学部長)の講演を聴く  
● ジュニア・オープン・ラボで自分達の実験を発表する  
● 理系出身者の女性達の話を聞く

【第1日目】3月14日(土)

|   |             |                                     |
|---|-------------|-------------------------------------|
| 1 | 10:00～10:30 | 開校式                                 |
| 2 | 10:30～11:10 | 基調講演                                |
| 3 | 11:10～11:40 | 実験に関する注意                            |
| 4 | 11:40～12:40 | 昼食会                                 |
| 5 | 12:40～16:40 | 【中高生】科学実験講座<br>【同伴者】サイエンスカフェ体験・実験見学 |
| 6 | 17:10～18:40 | 交流会                                 |
| 7 | 19:10～21:30 | 【中高生】プレゼン指導<br>ミーティング               |
| 8 | 21:30～22:00 | 【同伴者】主催者との懇談会<br>就寝準備               |

【第2日目】3月15日(日)

|    |             |                               |
|----|-------------|-------------------------------|
| 9  | 9:30～10:30  | 【中高生】プレゼン準備<br>【同伴者】実験紹介      |
| 10 | 10:30～12:00 | 大学生・大学院生との交流会<br>ジュニア・オープン・ラボ |
| 11 | 12:00～13:00 | 昼食会                           |
| 12 | 13:00～14:30 | ジュニア・オープン・ラボ                  |
| 13 | 15:00～16:00 | リリーススピーチ                      |
| 14 | 16:30～17:00 | 講師と中・高校生との交流会                 |

\*サイエンスカフェ体験  
「産卵し卵を科学する」 榎上二(四天王寺高等学校・中学校)

【実験コースの内容】

| No. | 実験分野  | 実験指導をする先生(所属)               | 実験講座名                                 |
|-----|-------|-----------------------------|---------------------------------------|
| 1   | 物理学   | 谷田屋(京都大学)                   | 宇宙線を捕まえる!                             |
| 2   | 生物学   | 藤原美紀(大阪大学)                  | がん細胞を見てみよう!                           |
| 3   | 化学    | 三方裕司(奈良女子大学)<br>清澤之(奈良女子大学) | 化学発光物質「ルミノール」の化学合成<br>～自作化合物で血痕を検出せよ～ |
| 4   | 遺伝子工学 | 近江戸孝子(神戸大学)                 | あなたの遺伝子解析～酒に強い人?弱い人?                  |
| 5   | 数学    | 藤田正人(奈良女子大学)                | デタラメを科学しよう                            |
| 6   | 応用物理  | 松岡由貴(奈良女子大学)                | 気まぐれ金属の動きを追え!                         |
| 7   | 化学    | 鈴木孝子(大阪大学)<br>竹内孝江(奈良女子大学)  | ほうれん草の葉緑素を質量分析で見てみよう!                 |
| 8   | 応用物理  | 田中智子(国際電気通信基礎技術研究所)         | 加速度センサを使った、人と音楽のユニゾン                  |
| 9   | 生物学   | 奈良久美(奈良女子大学)                | 液胞が見えるよーGFP導入植物の観察                    |
| 10  | 化学    | 松原誠二(京都大学)                  | 身の回りの有機物質を化学する                        |

【募集要項】

参加対象 女子高校生、女子中学3年生 合計80名 同伴者(保護者・教員) 20名  
参加条件 ①2日連続でご参加ください。②実験講座は必ずどれかひとつにご参加ください。  
参加費 中・高校生 6000円、同伴者 6700円(宿泊費、食事を含まず)  
募集期間 2009年1月10日(土)～2月10日(火)(参加費決定は随時)  
宿 舎 奈良ユースホステル(奈良市法蓮佐保山4-3-2(通称運動公園内))  
お申込み Eメールでお申し込みください(FAXも可)。  
(Eメールで申し込みの場合は、奈良女子大学科学塾ウェブサイト  
http://www.nara-wu.ac.jp/100th/kagakuju2009/ をご参照ください。  
タイトルは「科学塾2009申し込み」とし、必要事項を記入して送信してください。  
必ず、最終決定まで実験講座を記入してください。  
2FAIの場合は、可能範囲をご利用ください。

【会場周辺地図】

駐車場はこいしやさんの北  
奈良交通センターをご利用ください。

奈良女子大学  
JR奈良駅  
近鉄奈良駅  
奈良市法蓮佐保山4-3-2

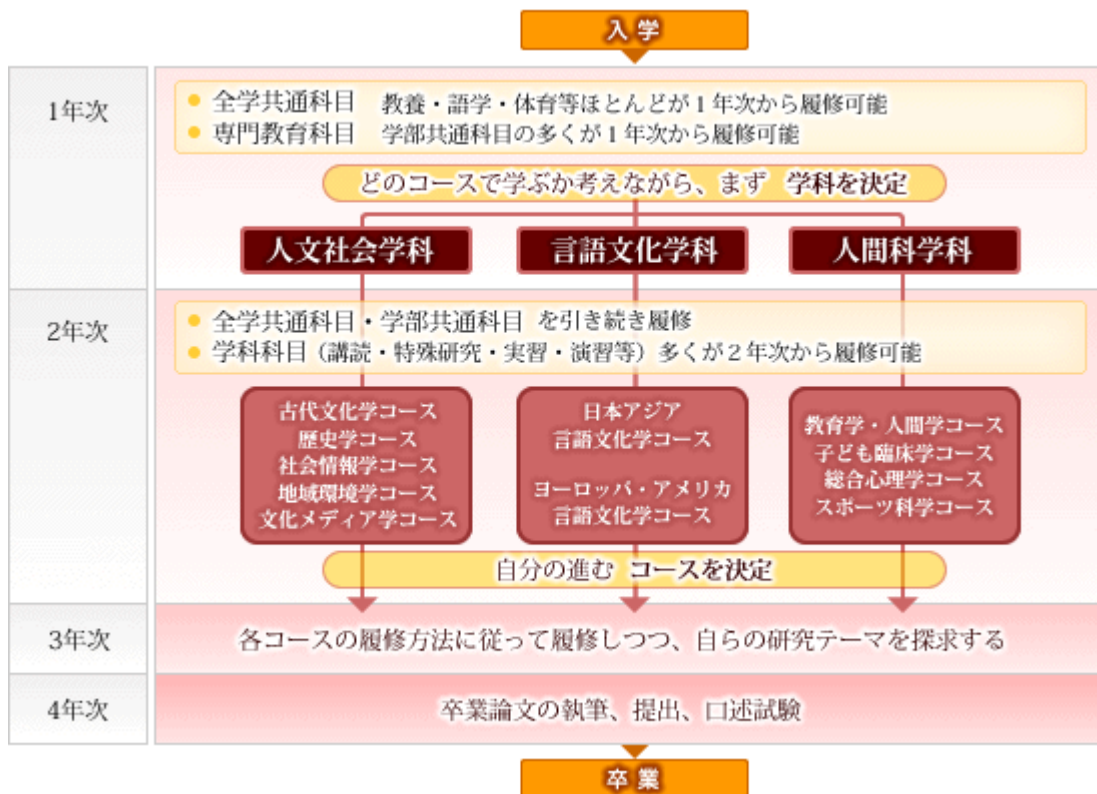
参加者決定 参加者は、抽選(選択コースによって調整します)で決定し、その結果は、郵送または、Eメールでお知らせします(3月上旬発送)。

〔別添資料1－6〕文学部コース制の概要

文学部では、以前から新生は特定の学科に所属せず、大学で学ぶ中で自分の専門を決めるようにしてきた。これまでは、2年次に進む前に10の専攻のいずれかに分かれ、卒業まで専攻に所属して学んできた。

新しい「コース制」では、2年次に進む前に、まず人文社会学科・言語文化学科・人間科学科の3つの学科のどこに所属するかを決める。学科にはいくつかのコースがあり、学生はそれらのいずれかに沿って学習計画を立てていくが、2年次の間はコースを変更することが可能となっている。

3年次に進む前に、自分の進むコースを決定する。そして自らの研究テーマを定めて、卒業論文へとつなげていく。



旧組織から新組織への改組図

| 新       |                 | 入学定員 | 教員定員 |   | 旧        |                 | 入学定員 | 教員定員 |
|---------|-----------------|------|------|---|----------|-----------------|------|------|
| 学科名(仮称) | コース名(仮称)        |      |      |   | 学科名      | 専攻名             |      |      |
| 人文社会学科  | 古代学             | 60   | 23   | ← | 国際社会文化学科 | 古代文化地域学         | 60   | 6    |
|         | 歴史学             |      |      |   |          | 比較歴史文化学         |      | 6    |
|         | 地域環境学           |      |      |   |          | 社会情報学           |      | 6    |
|         | 社会情報学           |      |      |   |          | 地域環境学           |      | 5    |
|         | 文化メディア学         |      |      |   |          | 言語情報学           |      | 8    |
| 言語文化学科  | 日本アジア言語文化学      | 50   | 20   | ← | 言語文化学科   | 日本アジア言語文化学      | 50   | 6    |
|         | ヨーロッパ・アメリカ言語文化学 |      |      |   |          | ヨーロッパ・アメリカ言語文化学 |      | 6    |
| 人間科学科   | 教育・人間学          | 50   | 22   | ← | 人間行動科学科  | 教育文化情報学         | 50   | 8    |
|         | 総合心理学           |      |      |   |          | 人間関係行動学         |      | 8    |
|         | スポーツ科学          |      |      |   |          | スポーツ科学          |      | 6    |
|         | 子ども臨床学          |      |      |   |          |                 |      |      |

## 〔別添資料 1－7〕 シラバスの WEB 入力システム（大学ホームページから抜粋）

campusmate
ログインユーザ名： システム管理者 ログアウト

**シラバス管理**

代行入力

進捗状況

**教員入力**

シラバス入力

オフィスアワー入力

**シラバス検索**

講義情報から検索

教員から検索

カリキュラムから検索

全文検索

お気に入り

**進捗状況(教員単位)結果** [ガイダンス](#)

戻る

教員名をクリックすると、その教員のシラバス記入状況の内訳が表示されます。

検索結果 28 件

| No | 教員番号     | 担当者                        | 専任/非常勤 | シラバス記入状況 |    |    |    | オフィスアワー | メール<br><input type="checkbox"/> | 前回メール送信日時 |
|----|----------|----------------------------|--------|----------|----|----|----|---------|---------------------------------|-----------|
|    |          |                            |        | 未着手      | 保存 | 完了 | 合計 |         |                                 |           |
| 1  | 77336452 | <a href="#">伊藤 一也</a>      | 専任     | 0        | 0  | 19 | 19 | 未       |                                 |           |
| 2  | 58196676 | <a href="#">内田 忠賢</a>      | 専任     | 0        | 0  | 25 | 25 | 未       |                                 |           |
| 3  | 00123017 | <a href="#">欧・米言文専攻共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 80 | 80 | 未       |                                 |           |
| 4  | 00152030 | <a href="#">欧・米文化学共通</a>   | 専任     | 0        | 0  | 88 | 88 | 未       |                                 |           |
| 5  | 00161046 | <a href="#">教育学・人間学共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 39 | 39 | 未       |                                 |           |
| 6  | 00131081 | <a href="#">教育文化学専攻共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 49 | 49 | 未       |                                 |           |
| 7  | 78483045 | <a href="#">栗岡 幹英</a>      | 専任     | 0        | 0  | 24 | 24 | 未       |                                 |           |
| 8  | 00121023 | <a href="#">言語情報学専攻共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 59 | 59 | 未       |                                 |           |
| 9  | 00141030 | <a href="#">古代文化学共通</a>    | 専任     | 0        | 0  | 38 | 38 | 未       |                                 |           |
| 10 | 00111075 | <a href="#">古代文化学専攻共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 49 | 49 | 未       |                                 |           |
| 11 | 00162098 | <a href="#">子ども臨床学共通</a>   | 専任     | 0        | 0  | 37 | 37 | 未       |                                 |           |
| 12 | 00143023 | <a href="#">社会情報学共通</a>    | 専任     | 0        | 0  | 46 | 46 | 未       |                                 |           |
| 13 | 00113069 | <a href="#">社会情報学専攻共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 62 | 62 | 未       |                                 |           |
| 14 | 56673918 | <a href="#">杉峰 英憲</a>      | 専任     | 0        | 0  | 3  | 3  | 未       |                                 |           |
| 15 | 00164081 | <a href="#">スポーツ科学共通</a>   | 専任     | 0        | 0  | 31 | 31 | 未       |                                 |           |
| 16 | 00133075 | <a href="#">スポーツ専攻共通</a>   | 専任     | 0        | 0  | 30 | 30 | 未       |                                 |           |
| 17 | 00163030 | <a href="#">総合心理学共通</a>    | 専任     | 0        | 0  | 29 | 29 | 未       |                                 |           |
| 18 | 00144075 | <a href="#">地域環境学共通</a>    | 専任     | 0        | 0  | 31 | 31 | 未       |                                 |           |
| 19 | 00114001 | <a href="#">地域環境学専攻共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 39 | 39 | 未       |                                 |           |
| 20 | 65537510 | <a href="#">トーマス ハックナー</a> | 専任     | 0        | 0  | 14 | 14 | 未       |                                 |           |
| 21 | 00122075 | <a href="#">日垂言文専攻共通</a>   | 専任     | 0        | 0  | 52 | 52 | 未       |                                 |           |
| 22 | 00151098 | <a href="#">日ア言語文化学共通</a>  | 専任     | 0        | 0  | 60 | 60 | 未       |                                 |           |
| 23 | 00132023 | <a href="#">人間関係専攻共通</a>   | 専任     | 0        | 0  | 50 | 50 | 未       |                                 |           |

## 〔別添資料 1－8〕教員免許状更新講習

## ○教員免許状更新講習－平成 21 年度開講講座一覧

| 講 座 名                           | 開講日      | 受講者数 | 主な受講対象              |
|---------------------------------|----------|------|---------------------|
| 教育の最新事情                         | 8/6～7    | 88   | 全教諭                 |
|                                 | 8/22～23  | 53   |                     |
| 幼小連携の意義と課題                      | 8/10     | 14   | 幼・小教諭               |
| 総合学習のカリキュラム開発と指導法               | 8/8      | 15   | 小・中教諭               |
| 子どもの「不思議感」を活かした小学校理科の指導法        | 8/11     | 11   | 小教諭                 |
| 心身の健康を育む生徒指導論                   | 8/5      | 64   | 中・高教諭               |
| 国語ギライにどう教える？                    | 8/11     | 40   | 中・高教諭（国語科）          |
| 「万葉集」をどう教えるか？                   | 8/10     | 32   |                     |
| 伝統文化と生活を教材化する                   | 8/20     | 32   | 中・高教諭               |
| 地域を読む／社会を読む                     | 8/19     | 14   |                     |
| 地域史と交流史の立体交差                    | 8/21     | 11   | 中（社会科）<br>高（地歴・公）教諭 |
| 「自分のからだとのつきあい方」を考える             | 8/10     | 12   | 中・高（保体）             |
| 英語学の潮流と英語圏の言語、文化、文学             | 8/10     | 24   | 中・高教諭（英語科）          |
| 奈良女子大学および附属中等教育学校における英語授業の紹介と実践 | 8/11     | 21   |                     |
| 共通科目－環境、資源・エネルギー                | 8/24     | 3    | 高教諭（理科）             |
| 高校理科・物理                         | 8/19     | 2    |                     |
| 高校理科・化学                         | 8/20     | 6    |                     |
| 高校理科・生物                         | 8/18     | 5    |                     |
| 教科書の数学から最先端の数学へ                 | 8/20     | 12   | 中・高教諭（数学科）          |
| 数学の基礎と応用                        | 8/21     | 15   |                     |
| 情報関連教員共通コース                     | 8/17     | 5    | 高教諭<br>（理科・数学科・情報科） |
| 情報教育関連教育コース（１）                  | 8/18     | 1    | 高教諭<br>（情報科）        |
| 情報教育関連教育コース（２）                  | 8/19     | 0    |                     |
| 家庭科講習 1                         | 8/10     | 14   | 中・高教諭（家庭科）          |
| 家庭科講習 2                         | 8/11     | 13   |                     |
| 子供が自ら学ぶ学習法                      | 2010/2/6 | 4    | 小教諭                 |

○「免許状更新講習課題解決型研究開発事業」実施計画書

様式1

(別紙3-①)免許状更新講習課題解決型研究開発事業

## 「免許状更新講習課題解決型研究開発事業」実施計画書

## I 実施計画の内容

(1) 担当者の連絡先・問い合わせ先

|     |              |     |                       |        |                                                                          |
|-----|--------------|-----|-----------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------|
| 氏名  | 森本恵子         | 所属  | 奈良女子大学教育システム研究開発センター長 | 職場住所   | 奈良市北魚屋東町                                                                 |
| Tel | 0742-20-3965 | Fax | 0742-20-3965          | E-mail | <a href="mailto:kmorimot@cc.nara-wu.ac.jp">kmorimot@cc.nara-wu.ac.jp</a> |

このたび、免許状更新講習課題解決型研究開発事業について、下記のとおり申請します。

平成21年5月19日

(申請者名)

奈良女子大学 理事・副学長 野口哲子

(2) 区分、テーマ名、事業内容及び実施方法

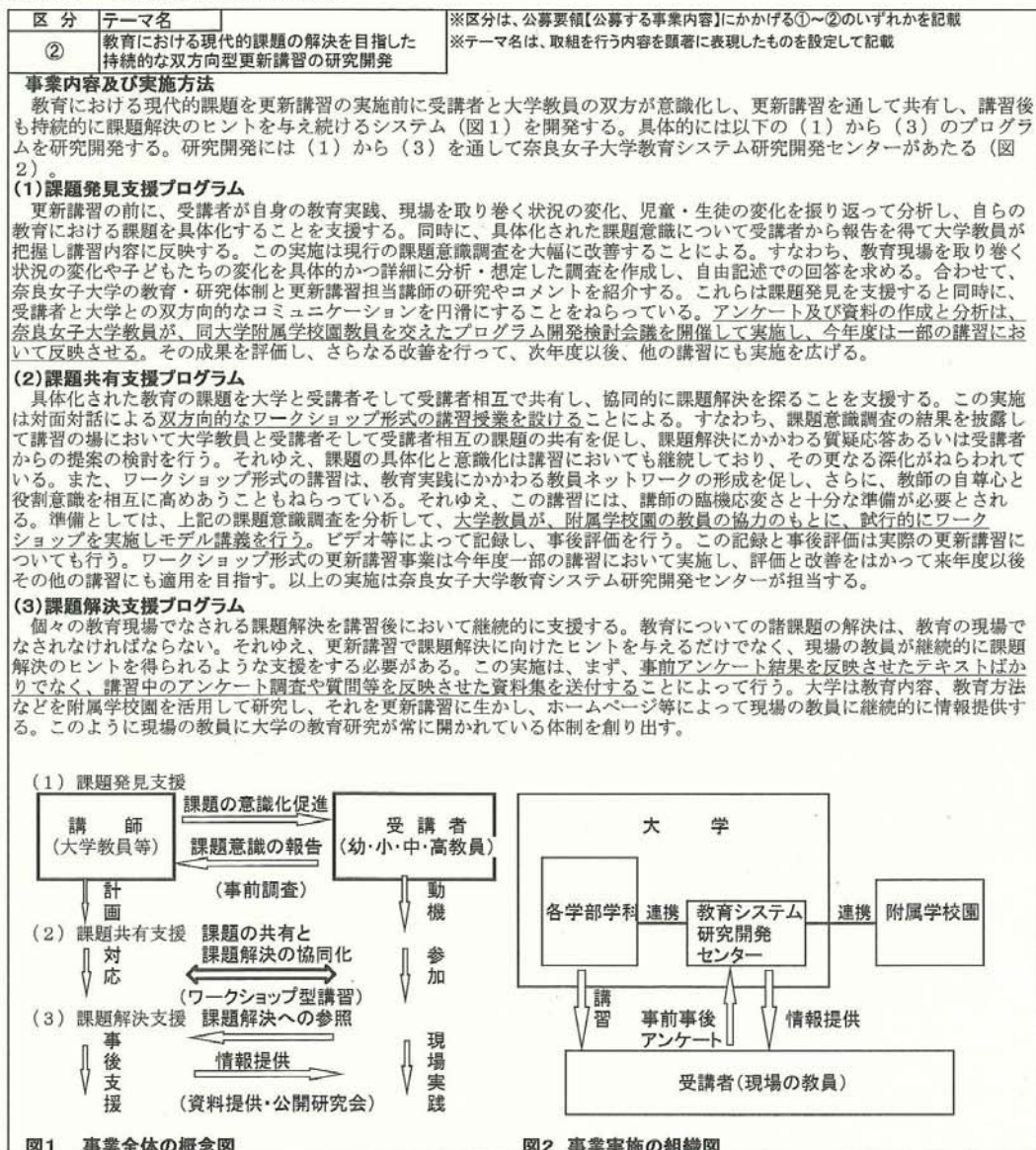


図1 事業全体の概念図

図2 事業実施の組織図

〔別添資料 1－9〕 女性教員の採用促進に関するアクションプラン

平成20年10月1日

学長 久米 健次

女性教員の採用促進に関するアクションプランについて

本学では、平成17年3月17日に人事に関する基本方針を制定し、その中で「教職員の新規採用に当たっては、候補者の能力、業績等に係る評価が概ね同等と認められる場合については、積極的に女性を採用するなどの方策により、女性教職員の採用の促進を図る。」（第6項）と定めており、これまでこの方針に沿った人事を行ってきた。

今後、さらに女性教員の採用促進を図るため、男女雇用機会均等法の第8条に定められた「女性労働者に係る措置に関する特例」を踏まえた教員募集等により、一層の採用促進を図ることとする。

〔別添資料 1－10〕 附属図書館「ラーニング・コモンズ」、「グループ学習室」  
(大学ホームページから抜粋)

ラーニング・コモンズ(1階 座席数24席)

図書館の資料やパソコンを使って、グループでディスカッション・コミュニケーションできる部屋です。  
座席数24席。カラープリンター1台とプロジェクターを設置しています。  
総合情報処理センターの利用者番号をお持ちの方は自由にご利用ください。  
インターネット、電子メール、ワード、エクセル等が利用できます。

授業等でご利用の場合は、予約が必要です。  
「図書館設備使用申込書」(Excel形式) (PDF形式)を図書館「PCヘルプデスク」に提出してください。

メールでも受け付けます(densi@lib.nara-wu.ac.jp)。  
\*Excel形式ファイルはメール添付で送信してください。  
メールのタイトルは「図書館設備使用申込書」としてください。  
PDFファイルはご記入の上、図書館「PCヘルプデスク」に提出してください。

「[図書館設備予約画面](#)」にて予約状況が確認いただけます。



グループ学習室(1階 座席数20席:予約制)

授業やサークル活動等、グループで利用できる学習室です。  
貸出用パソコンやプロジェクター(要予約)も利用できます。プリンターが1台あり、貸出用パソコンから印刷できます。

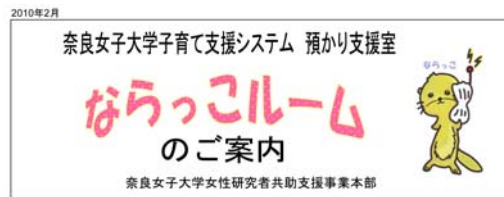
予約される場合は、「図書館設備使用申込書」(Excel形式) (PDF形式)を図書館「PCヘルプデスク」に提出してください。

メールでも受け付けます(densi@lib.nara-wu.ac.jp)。  
\*Excel形式ファイルはメール添付で送信してください。  
メールのタイトルは「図書館設備使用申込書」としてください。  
PDFファイルはご記入の上、図書館「PCヘルプデスク」に提出してください。

「[図書館設備予約画面](#)」にて予約状況が確認いただけます。



〔別添資料 1－11〕 女性のライフサイクルに配慮した教育研究環境整備



2009年12月より、大学内での預かりのための専用室『ならっこルーム』が稼働しています。学内での預かり支援の場にご利用ください。利用の際は、以下の案内に従ってください。

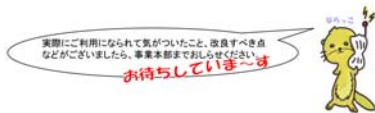
利用できる人

本システムの利用者とその子どもおよび登録サポーター、本事業が託児を依頼した外部のシッター、その他事業本部で承認された者が、利用できます。  
本システムでの預かり支援のほか、利用者とその子ども、利用者の代理である大人と利用者の子ども、などの利用ができます。子どもだけの利用はできません。  
本システムに登録されていない方の利用を希望される場合は、事業本部にご相談ください。  
＊ならっこルームを利用する子どもには傷害保険が適用されます。

利用時間 平日、土・日・祝日も 7:30～22:00

定員

10組程度の利用が可能であり、定員は設けておりません。複数の組が利用する場合がありますが、譲り合ってください。混み合った場合、大学会館和室などの施設をお勧めすることがあります。



奈良女子大学女性研究者共助支援事業本部の連絡先

電話 平日10～17時: 0742-20-3344  
メール shien@cc.nara-wu.ne.jp

〔別添資料 1－12〕 授業料免除対象者数の推移

|       | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 |
|-------|----------|----------|----------|----------|
| 申請者   | 571 名    | 549 名    | 638 名    | 718 名    |
| 全額免除者 | 249 名    | 211 名    | 132 名    | 40 名     |
| 半額免除者 | 130 名    | 210 名    | 358 名    | 567 名    |
| 免除者合計 | 379 名    | 421 名    | 490 名    | 607 名    |

〔別添資料 1－13〕 経済情勢の変動に伴う緊急経済支援のための特例授業料免除規程

○経済情勢の変動に伴う緊急経済支援のための奈良女子大学特例授業料免除規程  
(平成 21 年 3 月 27 日規程第 51 号)

経済情勢の変動に伴う緊急経済支援のための奈良女子大学特例授業料免除規程

(趣旨)

第 1 条 奈良女子大学（以下「本学」という。）の学部及び研究科に在学する者（研究生，聴講生及び科目等履修生は除く。以下「学生」という。）が，平成20年秋から拡がっている国内外における経済情勢の変動により，事業者側の理由による就職内定取消等となった場合に，本学「授業料等免除及び徴収猶予規程」に定める授業料免除とは別に，本規程による授業料免除を実施する。

(授業料免除の対象者)

第 2 条 本規程による授業料免除は，事業者側の理由による就職内定取消または就職内定の辞退勧告等を受けたことにより，標準修業年限を超えて在学することとなる者を対象とする。

(授業料免除の実施手続)

第 3 条 本規程による授業料免除は，学生からの授業料免除申請に基づき，学生生活支援室において，前条の対象者であることの確認を行う。

2 前項の授業料免除申請は，学生が所定の期日までに行うものとする。

3 第 1 項の対象者であることの確認は，申請書及び証明書類，面談等により行う。

(授業料免除の額)

第 4 条 本規程による授業料免除は，当該年度の授業料全額を免除する。

2 本規程による授業料免除は，本学「授業料等免除及び徴収猶予選考基準」に定める「免除実施可能額」とは別枠で実施するものとする。

(効果及び必要性の見直し)

第 5 条 本規程により実施する授業料免除は，平成21年度以降の授業料について実施するものとする。なお，学生生活支援室は，本規程による学生の経済支援の効果及び必要性について，年度ごとに見直しを行うものとする。

附 則

この規程は，平成21年 3 月27日から施行する。

〔別添資料2-1〕アジア・ジェンダー文化学研究センターを中心とした研究推進

○プロジェクト研究「帰国留学生のキャリア形成とライフコースに関する調査」  
(アジア・ジェンダー文化学研究センターニューズレター No.9 から抜粋)

プロジェクト研究  
「帰国留学生のキャリア形成と  
ライフコースに関する調査」

松岡悦子



私が初めて本学の留学生に関心をもったのは、たまたま調査で訪れた中国で通訳をしてくれた女性が、奈良女子大学の修士課程を修了していたからだった。彼女は奈良に留学中、地域の人たちに親切にしてもらい、とても楽しかったと述べたが、その話は意外なこととして私の記憶にずっと残っていた。なぜなら、アジアからの留学生の多くが、日本社会で寂しい思いを抱えながら、ひたすら学位を取るために勉強しているという先入観があったからだ。

それからわずか2-3年後に奈良女子大学に勤めることになった私は、留学生たちが上手に日本語を喋って、大学生活にだけとけ込んでいるのを知り、本学の留学生対応の歴史の厚みを感じた。また当然のことながら、帰国した留学生は本国でエリートとして高い地位を得、社会で大きな活躍をしていた。そのような事実を知るにつけ、本学がアジアの女性人材の育成に果たした役割や、留学生のキャリアパスを知ることは、アジアでの奈良女の役割を再確認することにつながるものと思われた。折しも2009年は、奈良女子大学100周年の年であった。そこで、アジア・ジェンダー文化学研究センターの研究の一環として、本学のプロジェクト研究費を得て調査を始めた。今回は、2009年10月に訪問した韓国の3人の元留学生について報告したい。まず、今回話を伺った3人のプロフィールを紹介する。

辛美慶さん (圓光大学校 名誉教授)

(1943年生、留学期間:1970年~73年 食物学専攻)

ソウルの漢陽大学を卒業後、文部省の留学生試験を受けて合格した。奈良女子大学の修士課程食物専攻に入り、梶田先生のもとで緑茶の研究を行った。朝7時半から夜11時頃まで研究室にいて、土曜日も洗濯し終わるとまた研究室に行った。研究室では順番にお茶を入れて、1日に5回一緒にお茶を飲んだ。韓国に戻って2年間非常勤講師をした後、35才で圓光大学の教授になり、36才で結婚。男女2人の子供がいる。子供が高校生になるまで、住み込みのお手伝いさんを雇っていた。

崔正和さん (ソウル大学衣類学科教授)

(1946年生、留学期間:1973年~75年 被服学専攻)

良い奥さんになりたくて、ソウル大学家政学部に入學した。卒業後しばらく公務員をした後、大学に呼び戻されて助手になり、文部省の奨学金を得て留学した。寮の4人部屋で日本各地から来ている学生と友達になり、楽しかった。本学で修士号をとり、博士号を神戸大学医学部でとった後に、33才でソウル大の農学部教授になった。36才で結婚し、2人の子を出産した。お手伝いさんを2人雇い、子どもが小さい間も夜9時頃まで大学で仕事をした。

申京珠さん (漢陽大学校室内環境デザイン学科教授)

(1950年生、留学期間:1974年~78年 住居学専攻)

佐保会韓国支部の会長をしている。嶺南大学を卒業後、日本の文化女子大学に留学したが、すぐに奈良女に移った。研究室では常に日本の教育放送を聞きながら勉強し、皆が帰った後も夜の12時頃まで勉強した。修士課程を終えるときに、母校の嶺南大学から教授で来るように要請されたが、大阪市立大学の博士後期課程に進学し、1983年にソウルの漢陽大学に就職した。

女高師時代に韓国から留学していた人たちはすでに高齢のため、実質的にこの3人が話のできる高齢の元留学生だった。今回は、3人別々に話を聞くと同時に、3人一緒に思い出を話してもらった。通訳はほとんど必要なかったが、日本在住の元留学生の黄貞允さんに同行してもらった。

今回の面談の感想を以下に述べる。まず、韓国では1980年代初めまでは、博士号があればどの大学にでも就職できたそう。崔さんも申さんも、学位が取れる頃に、職を用意して待っていると言われていた。ところが90年代入ると、アメリカ帰りが圧倒的に有利になり、英語で授業ができることが就職の条件ようになる。日本への留学は、その点だけをとても不利になった。彼女たちは、帰国後も奈良女子大学を外から眺め、本学の現状に対して中々手厳しいコメントを述べていた。しかし、これらの意見は本学を客観的に見るための貴重な視点に思われた。

○アンケート調査「学生の進路選択に関するジェンダー意識—理系を目指す女子の進路選択の要因」

進路決定に関するアンケート

アジア・ジェンダー文化研究センターでは、理系・文系それぞれへの進路決定と、家族環境についての調査を行っています。アンケートの回答は統計的な処理を行った上で集計した数値として表しますので、個人が特定されるような情報が漏れることはありません。  
以下のアンケートにぜひご協力いただけますようお願いします。

1. 最初に、あなたについて教えてください。

1-1. 現在の所属はどこですか？ 専門分野が決まっている人、もしくはまだ決まっていなくても、希望している専門がある人は、それに○をつけて下さい。

|        |          |          |         |         |
|--------|----------|----------|---------|---------|
| 文学部    | 1. 人文社会学 | 2. 言語文化学 | 3. 人間科学 | 4. 未定   |
| 理学部    | 1. 数学    | 2. 物理    | 3. 化学   | 4. 生物   |
| 生活環境学部 | 1. 食物栄養  | 2. 生活健康  | 3. 衣環境  | 4. 住環境  |
|        |          |          |         | 5. 生活文化 |

(中略)

2-8 大学でどの専門分野に進学するかを決めるきっかけとなった出来事があつたら教えてください。

そして、その出来事はあなたが何年生のときのことですか？

例1: 小学3年生のとき理科の授業で虹を見て「きれいだ!」と思ったから○○学部に入ろうと決めた。

例2: になりたい職業が動物に関わる仕事だったので、中学2年のときの担任(社会科)に相談したら、理系に進む必要があると分かったから○○学科に入った。

( ) 年生のとき

出来事 ( )

2-9 大学卒業後の進路を決めるきっかけとなった出来事があつたら教えてください。そして、その出来事はあなたが何回(年)生のときのことですか？

例1: 高校3年生のとき、クラブの先輩が、システムエンジニアの職について、システムを作り上げていく姿がかっこいいと思ったから○○社に就職したいと思っている。

例2: 2回生のとき、学部卒業後就職した先輩が、技術職を希望していたのに、営業に回されたと聞いて、大学院に進んで専門性を高める方がよいと思ったから、大学院に進学するつもりである。

( ) 回(年)生のとき

出来事 ( )

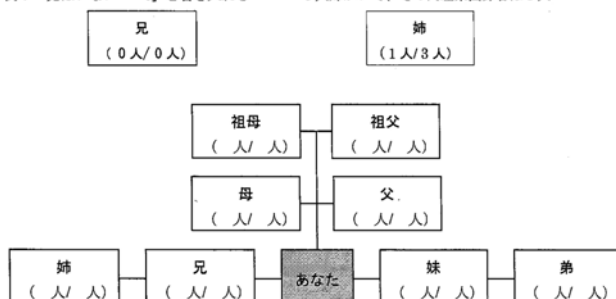
(中略)

4 あなたの家族について教えてください。

4-1. あなたの家族それぞれの人数と、その中の理系出身者の人数を書いて下さい。どちらか分りにくい(理系・文系両方の経験がある、もしくは判別しにくい)場合は、あなたがどちらと思うか、で判断して下さい。

例: 兄はいない→「0」と書き入れる

3人姉がいて、その内理系出身者は1人



〔別添資料 2 - 2〕 奈良盆地歴史地理データベース (GIS データベース)  
(大学ホームページから抜粋)

## 奈良盆地歴史地理データベース

古代日本形成の特質解明の研究教育拠点  
奈良女子大学 21世紀COEプログラム



▶ はじめに

▶ データベース

### はじめに

- ▶ [はじめにお読み下さい](#)
- ▶ [データベース作成の目的など](#)

### データベース

- ▶ [小字データベース](#)
- ▶ [藤原京遺構データベース](#)
- ▶ [条里・条坊関連史料データベース](#)
- ▶ [古墳時代集落遺跡データベース](#)
- ▶ [古墳データベース](#)
- ▶ [万葉歌碑データベース](#)

### お知らせ

奈良盆地歴史地理データベースは、GISソフトウェア(ArcGIS)を利用して作成されていますが、インターネット上での全面的な公開に向けて準備中です。現在、一部のデータやGISソフトウェアでの表示例をご覧ください。上のメニューからお入り下さい。

―― 更新履歴 ――

「万葉歌碑データベース」のデータを更新しました(2010/02/14)

「古墳時代集落遺跡データベース」を掲載しました(2009/08/07)

「万葉歌碑データベース」のデータを更新しました(2009/07/28)

「藤原京遺構データベース」を掲載しました(2009/07/24)

「小字データベース」の地図データを追加しました(2009/07/07)

奈良盆地歴史地理データベースの試験公開をめました(2009/06/17)

▶ [奈良女子大学21世紀COEプログラムホームページ](#)

▶ [古代学学術研究センターホームページ](#)

▶ [奈良女子大学ホームページ](#)

- 16 -

〔別添資料 2－3〕 奈良女子大学メールマガジンの年度別発信数と登録者数推移

|         | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 |
|---------|----------|----------|----------|----------|
| 発信数（回）  | 48       | 48       | 50       | 50       |
| 登録者数（人） | 482      | 604      | 704      | 735      |

登録者数は、それぞれの年度の 3 月末現在の数字

〔別添資料 2－4〕 適切な研究者配置によるプロジェクト推進

○「古代史・環境史プロテオミクス研究創生事業」の実施体制等

〔特別 2－2－1〕

平成 21 年度 特別教育研究経費所要額調（研究推進）

|         |                                                                                                                                                                                                                                  |                          |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 重点事項の順位 | 2                                                                                                                                                                                                                                | 法人番号：60 法人名：国立大学法人奈良女子大学 |
| 事業名     | 古代史・環境史プロテオミクス研究創生事業<br>戦略的研究推進、古代史の物質的研究、生体物質科学、プロテオミクス、<br>環境科学、文化財保存科学、環境史学、若手女性研究者養成<br><br>【概要】<br>本事業は本学 21 世紀 COE プログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」の研究成果をふまえて、遺跡・文化財に含まれるタンパク質を同定し、その時間・環境的構造変化を解析する新規かつ最先端の古代史および環境史研究の方法論を提供する。 |                          |
| 事業実施主体  | 奈良女子大学大学院人間文化研究科                                                                                                                                                                                                                 |                          |
| 事業計画期間  | 平成 21 年度～平成 23 年度（3 年）                                                                                                                                                                                                           |                          |
| 概算要求額   | 平成 21 年度概算要求額 89,680 千円<br>（事業実施経費総額 303,340 千円）                                                                                                                                                                                 |                          |

（中略）

3. 事業の実現に向けた実施体制等

【実施体制】

本事業には、試料の調製、計測システムの構築とその周辺の試薬開発などの面で本学大学院人間文化研究科（共生自然科学専攻・機能性物質科学講座）の構成員全員が参加する。この中で、中沢隆教授が開発したプロテオーム解析法（特許取得）は本事業で活用できる。考古学的試料の探索、提供、および解析結果の歴史的解釈と考察には本学大学院人間文化研究科の館野和己（比較文化学専攻・文化史論講座）、相馬秀廣、高田将志（いずれも社会生活環境学専攻・社会地域学講座）の教授 3 名と宮路淳子准教授（比較文化学専攻・文化史論講座）が参加する。館野、相馬両教授と宮路准教授は既に本学 21 世紀 COE プログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」（研究代表者・館野教授）において活発な研究活動を行っている。高田教授は本事業の先駆けとなる鉱物試料に関する研究に従事し、奈良県立橿原考古学研究所の共同研究員としても奈良県内の遺跡発掘事業に協力している。特に宮路准教授は、平城宮跡から本事業でも研究対象とする花粉試料などの収集に経験を持つ。館野教授と宮路准教授は、前任研究機関の奈良文化財研究所との連絡・研究協力についての折衝も担当できる。正倉院保存科学室との連携も計りたい（なお本学は杉本一樹正倉院事務所長を客員教授・21 世紀 COE プログラムの拠点メンバーに迎えるなど、正倉院との研究・教育連携を取っている）。本事業は自然科学系の共生自然科学専攻と複合領域系の社会生活環境学専攻、及び文科系の比較文化学専攻の協力体制のもとに実施する。さらに奈良文化財研究所、奈良県立橿原考古学研究所や奈良市など県内の教育委員会との密接な研究協力関係を構築する。

○「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」の実施体制等

**「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」  
(公募型研究領域) 研究概要**

**研究テーマ(領域)名**

文化財に含まれる膠の自然科学的分析による古代文化史および技術史の解明

**責任機関**

奈良女子大学

**研究実施期間**

平成 21 年度～平成 23 年度

**研究プロジェクトチームの体制**

| 研究総括・グループ<br>リーダー・研究分担<br>者の別 | 氏 名  | 所属機関・部局・職                 |
|-------------------------------|------|---------------------------|
| 研究総括                          | 宮路淳子 | 奈良女子大学・大学院人間文化研究科・<br>准教授 |
| 研究分担者                         | 高田将志 | 奈良女子大学・文学部・教授             |
| 研究分担者                         | 舘野和己 | 奈良女子大学・文学部・教授             |
| 研究分担者                         | 松尾良樹 | 奈良女子大学・文学部・教授             |
| 研究分担者                         | 中沢隆  | 奈良女子大学・理学部・教授             |
| 研究分担者                         | 鈴木孝仁 | 奈良女子大学・理学部・教授             |

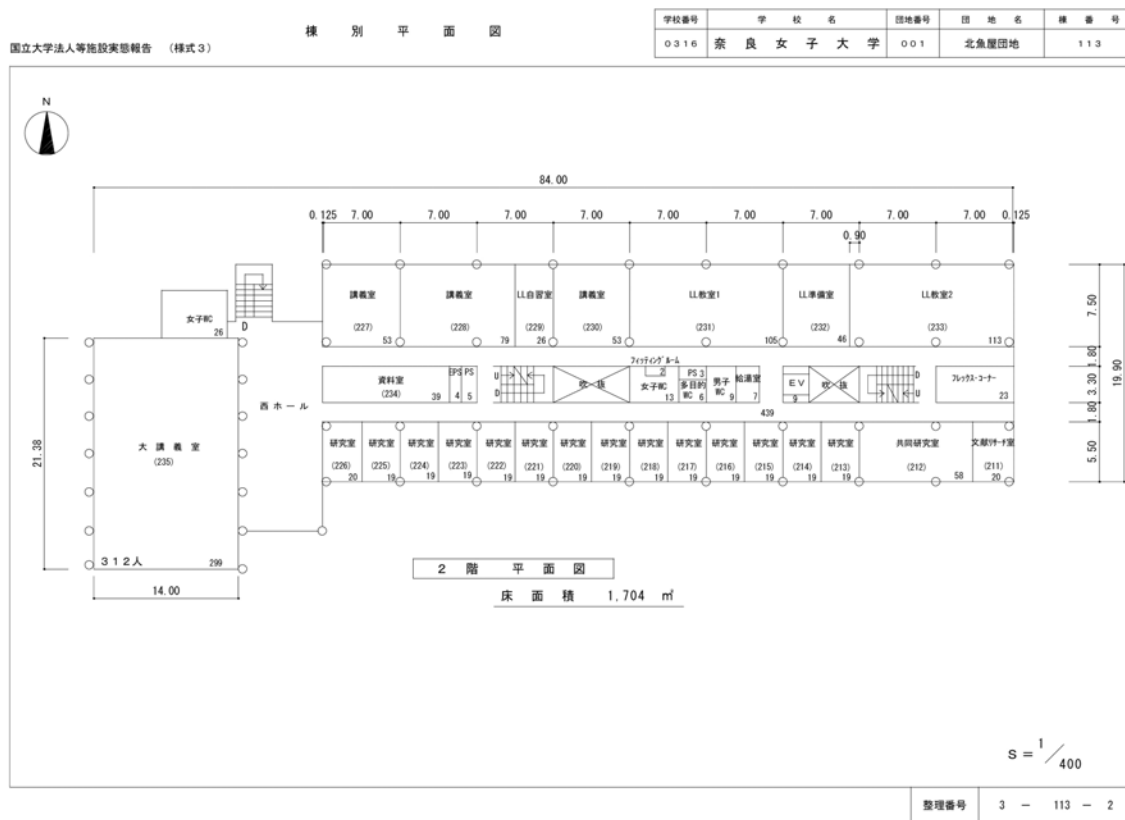
**配分(予定)額**

単位：千円

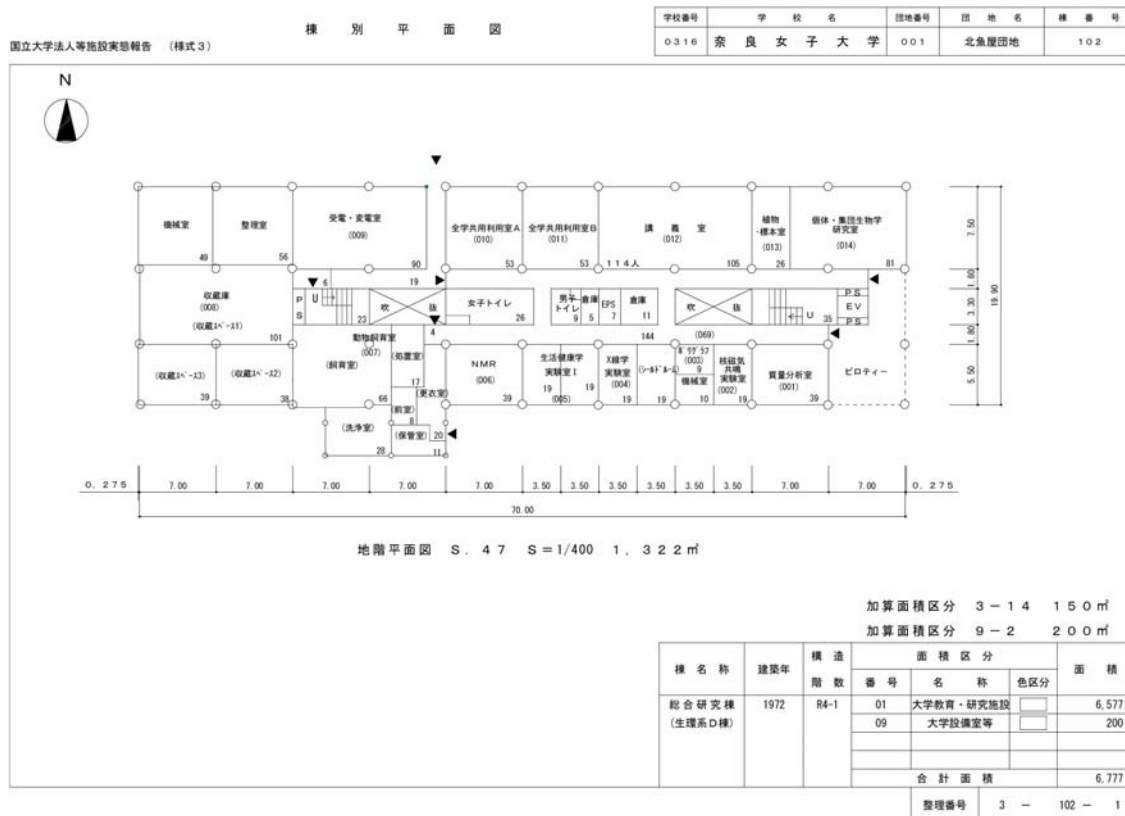
| 平成 21 年度 | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 |
|----------|----------|----------|
| 5,000    | 3,700    | 3,000    |

## 〔別添資料２－５〕学内施設の有効活用による研究環境整備

## ○フィッティングルーム・フレックスコーナーを設置した総合研究棟（文学系Ｓ棟）図面



## ○大学資料室（収蔵庫）の整備



〔別添資料 2-6〕 大学と附属学校園との連携による共同研究の推進

○教育シンポジウム「奈良女子大学附属学校園から日本の教育を考える」



○高大連携特別教育プログラム実施委員会資料

「高大連携特別教育プログラム研究専門部会設置及び研究活動について」(一部抜粋)

平成 22 年 6 月 14 日開催  
高大連携特別教育 P 実施委員会  
(追加資料)

高大連携特別教育プログラム研究専門部会設置及び研究活動について

(21.6.19 実施委員会記録より)

- 高大連携特別教育プログラムを活用して入学した生徒への教育方法の検討について  
委員長から、当該プログラムに基づく入学前教育及び入学後教育の教育方法の検討の必要性及び検討組織体制について説明があり、審議の結果、奈良女子大学高大連携特別教育プログラム実施委員会規程第 7 条に規定する専門部会として、「高大連携特別教育プログラム研究専門部会」を設置することとし、部会員等を次のとおり構成することとした。

○高大連携特別教育プログラム研究専門部会

部会員：文学部長、理学部長、生活環境学部長、附属学校部長、  
教育システム研究開発センター長及び教育計画室員（各学部から 1 名）  
部会長：教育システム研究開発センター長

(21.10.14 実施委員会記録より)

- 高大連携特別教育プログラムを活用して入学した生徒への教育方法の検討について  
委員長から、前回委員会において設置することとされた「高大連携特別教育プログラム研究専門部会」の部会員のうち、教育計画室から文学部佐原教授、理学部角田教授、生活環境学部向井准教授を選出した旨報告があった。  
引き続き専門部会の部会長である森本委員から、高大連携特別教育プログラムを活用して入学した生徒への教育方法について、資料（1）により説明があり、この方向で今後専門部会において詳細を検討していくことを了承した。  
なお、森本委員から、専門部会を立ち上げるにあたり、部会メンバーに教育システム研究開発センター員を加えたい旨提案があり、検討の結果これを了承した。

(研究専門部会メンバー)

部会長：森本恵子（教育システム研究開発センター長）  
部会員：出田和久（文学部長）  
塚原敬一（理学部長）  
清水哲郎（生活環境学部長）  
中島道男（附属学校部長）  
佐原康夫（教育計画室員・文学部教授）  
角田秀一郎（教育計画室員・理学部教授）  
向井洋一（教育計画室員・生活環境学部准教授）

## 〔別添資料 3 - 1〕 国際学術交流協定締結校一覧

|    | 締 結 校 名                         | 締結年月日      |
|----|---------------------------------|------------|
| 1  | 西安工程大学（中国）                      | 1988. 2. 1 |
| 2  | 南京大学（中国）                        | 1994.10. 1 |
| 3  | 香港理工大学（中国）                      | 1996. 1. 1 |
| 4  | オックスフォード大学 オーリエル・コレッジ（連合王国）     | 1996. 7.23 |
| 5  | ベトナム国家大学（ベトナム）                  | 1996. 9. 5 |
| 6  | キャンベラ大学（オーストラリア）                | 1997. 2.10 |
| 7  | 梨花女子大学（韓国）                      | 1997. 2.28 |
| 8  | 蘇州大学（中国）                        | 1998. 4. 2 |
| 9  | 西安交通大学（中国）                      | 1999. 3.15 |
| 10 | クイーンマーガレット・ユニバーシティコレッジ（連合王国）    | 1999. 3.18 |
| 11 | キャロル・マルチンコウスキー・ポズナン医科学大学（ポーランド） | 1999. 4.26 |
| 12 | グラーツ大学（オーストリア）                  | 1999.12.16 |
| 13 | ノースカロライナ大学 グリーنزボロ校（アメリカ）       | 2000. 2.28 |
| 14 | ミルズカレッジ（アメリカ）                   | 2000. 3.30 |
| 15 | 東華大学繊維学部（中国）                    | 2000.10. 5 |
| 16 | ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）             | 2000.11.28 |
| 17 | ソウル大学生生活科学部（韓国）                 | 2001. 3. 7 |
| 18 | ロシア人民友好大学（ロシア）                  | 2001. 5.29 |
| 19 | ハノイ教育大学（ベトナム）                   | 2001. 9.26 |
| 20 | 新疆大学（中国）                        | 2002. 3.26 |
| 21 | カブール大学（アフガニスタン）                 | 2003. 3.28 |
| 22 | アフガニスタン教育大学（アフガニスタン）            | 2003. 3.28 |
| 23 | バングラデシュ農科大学（バングラデシュ）            | 2003. 8.20 |
| 24 | 武漢大学（中国）                        | 2003.10.15 |
| 25 | ボローニャ大学文学部（イタリア）                | 2005. 3.24 |
| 26 | パリ・ディドロ パリ第7大学（フランス）            | 2005.10.17 |
| 27 | トリアー大学第二文学部（ドイツ）                | 2006. 3.30 |
| 28 | レスター大学（連合王国）                    | 2006. 7. 5 |
| 29 | 国立清華大学（台湾）                      | 2007. 8.24 |
| 30 | 内蒙古大学蒙古学学院（中国）                  | 2007.12.25 |
| 31 | ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学（ベトナム）         | 2009. 3.12 |
| 32 | ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学（ベトナム）      | 2009. 5.26 |
| 33 | 東海大学（台湾）                        | 2009. 9.24 |
| 34 | ベトナム貿易大学（ベトナム）                  | 2010. 3.29 |
| 35 | ハノイ大学                           | 2010. 3.30 |

赤字は、平成 20、21 年度中に締結した協定校

〔別添資料 3－2〕 奈良地域留学生交流推進会議

## 会 議 次 第

平成 21 年 11 月 19 日（木）午後 2 時 30 分～4 時

### 【開 会】

### 【議長挨拶】

奈良地域留学生交流推進会議議長

奈良女子大学長

野 口 誠 之

### 【文部科学省所管事項説明】

文部科学省高等教育局学生・留学生課

留学生交流室 政策調査係長 竹花浩幸

外国留学係 米内山育子

### 【議 事】

1. 平成 22 年度事業計画等について ..... 1
2. 平城遷都 1300 年祭関係事項について ..... 2
3. 資格外活動許可を取得した留学生の人材バンクの創設について  
..... 3
4. その他 ..... 4

### 【報告事項】

1. 平成 21 年度（第 41 回）奈良地域留学生交流推進会議運営  
委員会について ..... 5
2. 平成 21 年度留学生地域受入れ支援事業について ..... 5
3. 留学生の資格外活動許可に係る申請取次講習会について... 5
4. 平成 21 年度（平成 21. 11. 1. 現在）留学生受入現況について  
..... 5
5. 2009 ユネスコ東アジア子ども芸術祭について ..... 5
6. その他 ..... 5

## 〔別添資料 3-3〕アフガニスタン女子教育支援のための女性教員研修

## 五女子大学コンソーシアム

(お茶の水女子大学、東京女子大学、日本女子大学、津田塾大学、奈良女子大学)

五女子大学コンソーシアムが平成 14 年度～18 年度にアフガニスタンの女性教員（各年度 20 名～10 名：総勢 71 名）に対し研修を実施していたが、平成 18 年度限りで JICA の支援が打ち切りとなり、本研修については同年度をもって終了することとなった。五女子大学コンソーシアムにおいては、5 年間に蓄積された研修のノウハウを今後も活かすため、従来のアフガニスタン女子教育支援に限定することなく、広く開発途上国の女子教育に関する支援等も視野に入れ、平成 18 年 11 月 1 日付けで、五女子大学間で新たな協定を締結した。

今後の支援のあり方等を再検討し、松浪文部科学省副大臣（当時）、JICA 理事長、アフガニスタン関係者等からの改めての研修実施の要望もあり、平成 20 年度において五女子大学コンソーシアムとして JICA 公募事業の「青年研修事業」に申請し、新たな事業として再開することとなった。

平成 20 年度 (平成 21 年 1 月 22 日～24 日実施) 研修員：13 名

平成 21 年度 (平成 22 年 1 月 21 日～23 日実施) 研修員：15 名

2009 年度 アフガニスタン青年研修：奈良女子大学研修プログラム スケジュール&amp;役割分担等

| 月 日          | 場 所                                             | 主 要 事 項                                                                                                                                                  | アフガニスタン教員<br>研 修 員 | JICA<br>お茶大等                | 奈 良 女 子 大 学 関 係                 |                     |              |                 |        | 備 考                                                  |
|--------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------------|---------------------------------|---------------------|--------------|-----------------|--------|------------------------------------------------------|
|              |                                                 |                                                                                                                                                          |                    |                             | 実 施 委 員                         | 国際課                 | 報 告<br>インターン | 協力留学生           | ボランティア |                                                      |
| 2010/1/21(木) | <移動><br>東京 → 奈良                                 | 新幹線 東京 → 京都<br>11:10発 13:28着(のぞみ 23号)<br>JR京都 → JR奈良<br>13:49発 14:33着<br>JR奈良→「ホテル日航奈良」(泊)<br>駅まで出迎と宿泊施設への案内(野村・北・小田原)<br>奈良での研修実施の打合せ (野村・北・小田原)        | 15                 | 内海先生<br>高橋先生<br>研修監理員<br>2名 | 野 村<br>(京都駅迎え)                  | 北<br>小田原<br>(JR奈良駅) | 野 津          | Karima<br>Adela |        | 研修監理員<br>アーマディヤール 治春<br>レナード マガッラ                    |
| 2010/1/22(金) | 8:30～8:45 大学への移動                                | 「ホテル日航奈良」発 → 大学前(西門から入構)<br>借り上げバス 迎え(小田原)                                                                                                               |                    |                             |                                 | 小田原                 |              |                 |        |                                                      |
|              | 9:00～9:30<br>記念撮影(場所：記念館2F講堂)                   | ・学長、副学長、事務局長、実施委員会委員<br>等真鍮彫り(北)                                                                                                                         |                    |                             |                                 |                     |              |                 |        | カメラ・三脚等の準備                                           |
|              | 9:30～10:00<br>開講式(オリエンテーション)<br>(場所：F棟5F大学院会議室) | 開講式 司会(小山)<br>・学長歓迎挨拶<br>・大学紹介・研修内容の説明(野村)<br>学内出席予定者：学長、副学長、事務局長、実施委員会委員<br>中道先生(～昼食歓迎会 13時まで)                                                          |                    |                             | 野 村<br>村 松<br>( )<br>( )<br>( ) | 北<br>小田原            | 野 津          | Adela           |        | パワーポイント使用                                            |
|              | 10:00～11:30<br>研修1講義「食生活と健康」<br>(場所：F棟5F大学院会議室) | 講師：伊達ちぐさ(生活環境学部食糧栄養学科・教授)                                                                                                                                | 15                 | 内海先生<br>高橋先生<br>研修監理員<br>2名 | 野 村<br>村 松<br>( )<br>( )<br>( ) | 北<br>小田原            | 野 津          |                 |        | ・手荷物持参で、大学会館へ移動                                      |
|              | 11:30～13:00<br>昼食歓迎会<br>(場所：大学会館3階中集食堂)         | 歓迎会 司会(村松)<br>・佐久間副学長挨拶<br>・研修員代表挨拶<br>・研修員紹介(お茶大から)<br>・学外協力者紹介(村松)<br>お茶大、通訳、本学留学生と指導教員、中道先生<br>・乾杯(野口副学長)<br>・記念品の贈呈(学長)<br>一緒に食事する者(部局長会議メンバー、実施委員等) |                    |                             | 他、左欄「備考」参照                      |                     |              | Karima<br>Adela |        | ・奈良女子大学記念品<br>(絵はがき、ポーチ)×17セット<br>・特別食の手配等(手配等担当：村松) |
|              | 13:00～13:50<br>大学から附属小学校への移動                    | 大学(講堂前)発 → 附属小学校着 借り上げバス移動<br>引率・同行者(成瀬・北・小田原)                                                                                                           |                    |                             |                                 |                     |              |                 |        |                                                      |
|              | 14:00～16:30<br>研修2青少年会(PTA)活動観察                 | 附属小学校コーディネータ・相田 副校長<br>附属小学校教務部長・相田副校長および青友会会長・副会長<br>(同行者：成瀬・北・小田原)                                                                                     | 15                 | 内海先生<br>高橋先生<br>研修監理員<br>2名 | 成 瀬<br>相 田                      | 北<br>小田原            | 奥 田          | Karima<br>Adela |        |                                                      |
| 2010/1/23(土) | 8:30～8:50<br>東大寺への移動                            | 引率・同行者は、ホテルのロビー 8:20集合<br>「ホテル日航奈良」発 → 大仏前駐車場 借り上げバス移動<br>引率・同行者(野村・岩崎・小山・吉田・北・小田原)                                                                      |                    |                             |                                 |                     |              |                 |        | 英文パンフレット(17部)持参                                      |
|              | 9:00～11:00(未定)<br>研修3伝統的建築物の視察<br>東大寺           | 南大門→大仏殿→大仏→法華堂(三月堂)→二月堂<br>コーディネータ(岩崎教授)<br>同行者(野村・小山・吉田・北・小田原)<br>解説者(東大寺)                                                                              |                    |                             | 野 村<br>岩 崎<br>小 山<br>吉 田        | 北<br>小田原            | 奥 田<br>野 津   | Karima<br>Adela |        | 12:25 東大寺へ拝観時の説明後観音み<br>※ 英文パンフレット(17部)受領済み          |
|              | 11:00～11:20(未定)<br>東大寺から〇〇奈良駅への移動               | 大仏前駐車場発 → 〇〇奈良着 借り上げバス移動<br>引率：見送り者(野村・岩崎・小山・吉田・北・小田原)                                                                                                   | 15                 | 内海先生<br>高橋先生<br>研修監理員<br>2名 |                                 |                     |              |                 |        |                                                      |
|              | <移動><br>奈良 → 東京                                 | 〇〇 奈良 → 京都<br>〇〇〇〇発 〇〇〇〇着( )<br>新幹線 京都 → 東京<br>12:53発 15:13着(のぞみ 20号)                                                                                    |                    |                             |                                 |                     |              |                 |        |                                                      |
| 2010/1/ ( )  |                                                 | レポート送信(送信内容のチェック=担当者：野村)                                                                                                                                 |                    |                             |                                 |                     | 奥 田<br>野 津   |                 |        |                                                      |

2009 年度 JICA 青年研修事業(アフガニスタン:女子教育)五女子大学コンソーシアム研修

## 奈良女子大学研修プログラム

宿舎【ホテル日航奈良 = 奈良市三条本町8-1】

1月21日(木)

東京より奈良(ホテル日航奈良)へ午後移動(移動日)

1月22日(金)

### 奈良女子大学及び附属小学校で研修

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 9:30~10:00  | 開講式(学長挨拶、大学紹介等:F棟5階大学院会議室) |
| 10:00~11:30 | 講義(食生活と健康:F棟5階大学院会議室)      |
| 11:30~13:00 | 歓迎会(大学会館3階中集会室)等           |
| 14:00~16:30 | 附属小学校(育友会活動の視察等)           |

1月23日(土)

|            |                     |
|------------|---------------------|
| 伝統的建築物の視察  | 【東大寺 = 奈良市雑司町406-1】 |
| 9:00~11:00 | 東大寺見学               |

午後 奈良から東京へ移動

---

### ◎ 全体プログラム

1/12(火) 研修員来日

1/15(金) 五女子大学コンソーシアム主催の開講式

↓  
東京での研修  
↓  
1/21(木) 東京～奈良移動

↓  
奈良での研修  
↓  
1/23(土) 奈良～東京移動

↓  
東京での研修(1/27 第2回 アフガニスタン復興支援国際シンポジウム  
ー五女子大学コンソーシアム主催ー)  
↓  
1/29(金) 研修員帰国

### ◎ 受入研修員

15名